

平成22年度勝山市政策基本目標管理外部評価報告書

平成23年10月3日

勝山市総合行政審議会

1. 評価対象

評価対象は、市長が PDCA サイクルにより政策管理している「平成 22 年度政策基本目標管理結果」の重点項目を基本とした。ただし、事務事業としての性格が強く政策評価になじまない重点項目については、評価対象から割愛若しくは複数項目をひとつの重点項目にまとめて評価対象とした。

その結果、65 の重点項目が今回の評価の対象となったので、この 65 項目を第 4 次勝山市総合計画の体系に沿って政策ごとにまとめた。

2. 評価基準

(1) 内部評価

内部評価は、市長が「1. 評価対象」により評価の対象とした政策について自ら評価を行ったものである。

各部局長から提示された平成 22 年 4 月政策ヒアリングにおける政策目標に対する平成 23 年 3 月末現在の達成状況を基準に重点項目ごとの難易度を勘案して最終的に市長が次の 1 から 5 までの基準に沿って評点を付した。

まったく成果がなかった重点項目	1
あまり成果がなかった重点項目	2
最低限の成果はあった重点項目	3
かなりの成果があった重点項目	4
十分な成果があった重点項目	5

なお、各重点項目の評点の平均値を取り、小数点以下第二位を四捨五入して小数点以下第一位まで表示したものが「総括表」である（外部評価に同じ）。

(2) 外部評価

外部評価は、内部評価において評価対象とした政策について市長の諮問を受けた勝山市総合行政審議会が客観的に評価を行ったものである。

評価にあたっては、内部評価と同様の基準で実施した。

市長から提示された内部評価の結果を参考に事務局からの説明を受け、市民の目線により評点と内容を付した。

なお、総合行政審議会による審議の過程において委員から提出された政策に対する意見について外部評価の意見欄に記載したので今後の政策推進の参考とされたい。

3. 評価結果比較

内部評価と外部評価の評点比較は次のとおりである。

(1) 評点数

評点	内部評価	外部評価
評価 1	0	0
評価 2	6	4
評価 3	14	16
評価 4	25	24
評価 5	20	21

(2) 外部評価により評点に変更された重点項目数

・ 評点が上がった重点項目数

評点	項目数
評価 1 ⇒ 2	0
評価 2 ⇒ 3	2
評価 3 ⇒ 4	0
評価 4 ⇒ 5	2

・ 評点が下がった重点項目数

評点	項目数
評価 2 ⇒ 1	0
評価 3 ⇒ 2	0
評価 4 ⇒ 3	0
評価 5 ⇒ 4	1

(3) 重点項目別評点比較

1. 市民が参加する21世紀の夢のあるまちづくり

施策名	重点項目名	内部評価	外部評価	比較
市民参加のしくみづくり	市ホームページ・市広報の充実	3	3	
	市長となんでも語ろう会(若者世代との語ろう会)	4	4	
	エコミュージアムの推進(若者世代参入の仕組みづくり)	4	4	
情報化の推進	地域間における情報通信格差の是正	4	4	
多様な交流活動の展開	これから世代への支援	5	5	
	ジオパークを活用したまちづくり(恐竜王国推進事業・ダイノソーバレー構想)	4	4	

効果的な行財政運営	政策評価制度の推進	5	5	
	勤務評価制度の推進	4	4	
	柔軟な勤務時間体系の導入	4	4	
	窓口業務の効率化(窓口対応の向上と総合案内業務の確立)	4	4	
	市民相談業務の確立	5	5	
	中期財政計画の見直し	5	5	
	入札制度の改善	4	4	
	滞納整理等の推進	3	3	
地方分権と広域行政への取り組み	消防組織の広域化への対応	3	3	
	消防、緊急無線のデジタル化	5	5	

2. 少子・長寿化等に対応した人にやさしいまちづくり

施策名	重点項目名	内部評価	外部評価	比較
健康作り運動の推進	がん検診受診率の向上	4	4	
医療体制の整備	福井社会保険病院が奥越において果たしている機能を継続させる	5	5	
高齢者介護等の体制づくり	県立大学看護福祉学部と連携して高齢者見守り組織等の体制整備	4	5	↑
共働きを支える体制づくり	民間保育園の認定子ども園化に取り組む	2	2	
子育て支援等の充実	各種子育て支援事業の推進、「子育て環境モデル都市」を実現する	5	5	
生活の自立に向けた福祉の充実	障害者自立支援協議会の組織化等による障害者支援体制づくり	5	5	
	生活保護世帯の稼働年齢層に対する就労支援事業の強化	4	4	
	福祉バスの運行範囲の拡大についての検討	5	5	
安定した年金・保険体制等の確立	国保財政健全化、新しい医療制度への円滑な移行	4	4	
	メタボリックシンドローム予防のための健診・健康教室を充実	2	2	

3. 産業とまちのにぎわいなど若者に魅力あるまちづくり

施策名	重点項目名	内部評価	外部評価	比較
農林水産業の振興	農業の担い手(認定農業者、集落営農組織)の育成	4	4	
	循環型農業の推進	4	4	

	農業特産品の開発推進・販売奨励支援制度の拡大	4	4	
	有害鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止	2	3	↑
	里山の荒廃防止	5	5	
商工業の充実	産業振興支援策の充実(産業振興懇話会の充実と活用)	4	4	
	中心市街地活性化にかかる事業の推進	4	4	
	新しい産業を誘導する・新しい企業を誘致する	4	4	
観光リゾート産業の推進	観光誘客の促進	3	3	
	四季折々の自然を利用した体験型宿泊旅行の企画と誘致	3	3	
	エコ(まちなか)サイクリング誘客の推進	2	2	
中心市街地の形成とにぎわいのネットワーク	まちなかの駅ネットワーク勝山の機能向上を図る	3	3	
	はたや記念館ゆめおーれ勝山の活用	5	5	
	社会資本整備総合交付金事業の推進	4	4	

4. 環境に配慮した誰もが住みたくなる安全なまちづくり

施策名	重点項目名	内部評価	外部評価	比較
地域力の向上	北谷地区の地域振興(地域活性化に向けた要望への対応)	4	4	
交通体系の整備	利便性の高いバス運行体制の確立	5	5	
	「恐竜バス」の効率的な活用	5	5	
	えちぜん鉄道の利用促進	3	3	
快適で安全なまちづくりの推進	学校、市有公共建築物の耐震化を進める	3	3	
	災害情報伝達方法の改善と各地区の自主防災組織の設立支援	3	3	
	災害時要援護者支援計画に基づく要援護者の登録の推進と支援組織の構築	3	3	
	市内全家庭における住宅用火災警報器の設置	2	3	↑
循環型社会の構築に向けた供給処理体制の整備	簡易水道の上水道への統合	4	4	
	汚水処理施設接続の促進	2	2	
	市民と行政とが一体となったエコ環境都市実現に向けた活動	5	4	↓
総合的な雪対策の推進	狭い道路の除雪の推進	5	5	
質の高い住環境の整備	第3次定住化促進事業の推進	3	3	

	住宅計画に基づく新市営住宅の建設	4	4	
全市公園化の推進	長尾山総合公園第2期事業	5	5	
	都市公園の整備活用計画、弁天緑地公園整備	5	5	

5. 誰もが学び心が通うふれあいのまちづくり

学校教育の基盤整備と環境の充実	「生きる力」を育成する教育の推進	3	3	
	学校等耐震工事の推進	5	5	
	小・中学校の再編	4	5	↑
次世代を担う青少年を地域で育てる	次世代育成アクションプラン	3	3	
男女共同参画社会の推進	男女共同参画社会の実現	3	3	
余暇・スポーツ活動の充実	新体育館建設に向けての取組み	5	5	
伝統と歴史に培われた文化の継承	食育の推進	4	4	
	史跡白山平泉寺旧境内整備事業の推進(白山平泉寺の発掘地とガイダンス施設整備)、世界遺産登録に向けての取組み	4	4	
	国重要文化財旧木下家住宅の修繕と管理活用	5	5	

平成22年度勝山市政策基本目標管理外部評価

総括表、目次

項 目 名	内部評価		外部評価		ページ
1. 市民が参加する21世紀の夢のあるまちづくり（5項目）					
・市民参加のしくみづくり	3項目	3.7	3項目	3.7	1
・情報化の推進	1項目	4.0	1項目	4.0	1
・多様な交流活動の展開	2項目	4.5	2項目	4.5	1
・効果的な行財政運営	8項目	4.3	8項目	4.3	1
・地方分権と広域行政への取り組み	2項目	4.0	2項目	4.0	2
2. 少子・長寿化等に対応した人にやさしいまちづくり（7項目）					
・健康作り運動の推進	1項目	4.0	1項目	4.0	3
・医療体制の整備	1項目	5.0	1項目	5.0	3
・高齢者介護等の体制づくり	1項目	4.0	1項目	5.0	3
・共働きを支える体制づくり	1項目	2.0	1項目	2.0	3
・子育て支援等の充実	1項目	5.0	1項目	5.0	3
・生活の自立に向けた福祉の充実	3項目	4.7	3項目	4.7	4
・安定した年金・保険体制等の確立	2項目	3.0	2項目	3.0	4
3. 産業とまちのにぎわいなど若者に魅力あるまちづくり（4項目）					
・農林水産業の振興	5項目	3.8	5項目	4.0	5
・工業等の充実	3項目	4.0	3項目	4.0	6
・観光リゾート産業の推進	3項目	2.7	3項目	2.7	6
・中心市街地の形成とにぎわいのネットワーク	3項目	4.0	3項目	4.0	7

4. 環境に配慮した誰もが住みたくなる安全なまちづくり (7項目)					
・地域力の向上	1項目	4.0	1項目	4.0	8
・交通体系の整備	3項目	4.3	3項目	4.3	8
・快適で安全なまちづくりの推進	4項目	2.8	4項目	3.0	8
・循環型社会の構築に向けた供給処理体制の整備	3項目	3.7	3項目	3.3	9
・総合的な雪対策の推進	1項目	5.0	1項目	5.0	9
・質の高い住環境整備	2項目	3.5	2項目	3.5	10
・全市公園化の推進	2項目	5.0	2項目	5.0	10
5. 誰もが学び心が通うふれあいのまちづくり (5項目)					
・学校教育の基盤整備と環境の充実	3項目	4.0	3項目	4.3	11
・次世代を担う青少年を地域で育てる	1項目	3.0	1項目	3.0	11
・男女共同参画社会の推進	1項目	3.0	1項目	3.0	11
・余暇・スポーツ活動の充実	1項目	5.0	1項目	5.0	11
・伝統と歴史に培われた文化の継承	3項目	4.3	3項目	4.3	12
合計	65項目		65項目		

勝山市による内部評価

勝山市総合行政審議会による外部評価

1. 市民が参加する21世紀の夢のあるまちづくり

施策名		取組結果	内部 評価点
市民参加のしくみづくり	広報広聴活動の充実	市ホームページ・市広報の充実 ①イベント会場案内や施設等を表示させる地図機能は未実施(平成23年度予算で対応) ②動画は、YouTubeを利用し勝山を紹介する動画の配信を開始した。 ③観光HPの外国語対応は未実施。	3
	まちづくりへの市民参加と市民対話の推進	市長となんでも語ろう会(若者世代との語ろう会) ①平成22年度の平均参加者は137名で、前年度を10名上回った。 ②3中学校区別で開催。延べ182名が参加	4
	エコミュージアム構想推進のしくみづくり	エコミュージアムの推進(若者世代参入の仕組みづくり) ①9年間のわがまち元気事業の後継として、わがまち魅力醸成事業を創設 ②大型連休(春、夏)に、3カ所の庭園を公開したが、制度化には至らなかった。 ③協議会全体で先進地を視察し研究を行うとともに、4部会、広報委員会の充実強化に向けて活動を展開した。	4
情報化の推進	地域情報化の推進	地域間における情報通信格差の是正 ①平成23年3月21日より北谷町全域においてADSLによるサービスを開始した。 ②難視聴7地区の対策方法を決定し、対策を実施した。公共施設54施設中49施設が対策済み。残り5施設は平成23年度予算で対応する。	4
多様な交流活動の展開	ふれあい市民との交流促進	これから世代への支援 ①移住に関する問合せ96件、いなか暮らし見学会6件。10家族22人が移住し、目標を達成した。	5
	恐竜を活かしたまちづくり	ジオパークを活用したまちづくり(恐竜王国推進事業・ダイノソーバレー構想) ①ジオパークセミナー等の開催。パンフレット、ステッカー等の作成配布。ジオパーク公式ホームページの公開、ジオパーク学習支援事業の実施 ②参加者230人(計10回) ③スキージャム勝山やNPO恐竜のまち勝山応援隊で勉強会を開催したが、養成講座はH23予算対応 ④岩屋川の伏流水を使って9,600本を試作	4

意見	外部 評価点
最低限の成果があったと認める。 高齢者のために広報紙の紙面を充実されたい。 今後は、ホームページ閲覧者数を目標値として掲げられたい。	3
かなりの成果があったと認める。 参加者数については、市職員数を除いた数で計上されたい。	4
かなりの成果があったと認める。 まちなかミニ博物館の制度化に向けて取り組まれない。 庭園の公開期間を周知されたい。	4
かなりの成果があったと認める。 一部に暫定措置となった地区があったのは技術的な問題によるもので、目標を達成しているので評価を上げるべきとの意見があった。	4
十分な成果があったと認める。	5
かなりの成果があったと認める。	4

平成22年度政策基本目標管理外部評価

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
効果的な行政運営	行政組織等の 効率的運用	政策評価制度の推進 ①第5次総合計画基本計画の小項目で政策の進行管理を行うこととした。 ②外部評価項目を第5次総合計画基本計画の小項目とし、小項目の達成目標として「施策指標」を設定した。	5	十分な成果があったと認める。	5
		勤務評価制度の推進 ①全職種について、評価結果を勤勉手当に反映、主事級職員を除く職員について昇級を反映し目標を達成した。 ②勤務評価制度委員会を2回開催。検討結果を勤務評価策定会議に諮り第7次改訂した。	4	かなりの成果があったと認める。 一部に評価を達成しているとの意見があった。	4
効果的な行政運営	行政組織等の 効率的運用	柔軟な勤務時間体系の導入 ①平成23年度より市民課および税務課の一部窓口を時間延長することとし、勤務体制を整備した。	4	かなりの成果があったと認める。 市民の目線から窓口延長の日時が今の火曜日のままで良いのか、検証されたい。	4
		窓口業務の効率化(窓口対応の向上と総合案内業務の確立) ①高齢者の方に対しては、目的の場所まで職員が案内する体制を構築し、案内を実施した。 ②来庁者に対するあいさつ、声かけを市民課では徹底したが、庁舎2階など一部フロアでは徹底できなかった。 庁内見取り図、簡単な業務案内のチラシを作成し配置した。	4	かなりの成果があったと認める。 一部に、市民課におけるあいさつは目標を達成しているとの意見があった。 市民課だけではなく、勝山市として横断的に「窓口対応日本一」に取り組まれたい。	4
		市民相談業務の確立 ①弁護士による相談体制強化(毎月1回)。広報紙、記者会見等で成果のアピールおよび消費者相談事例を掲載。出前講座開催(30回)。悪質商法被害防止のため各公民館に注意喚起。若者被害防止のため成人式にて寸劇・パネル展示実施。高齢者被害防止キャンペーンを市内医療機関にて実施。多重債務者の家計簿チェックの実施	5	十分な成果があったと認める。	5
	財政の効率的運用	中期財政計画の見直し ①中期財政見通しを平成22年11月に策定し公表した。	5	十分な成果があったと認める。	5
		入札制度の改善 ①入札制度改善検討委員会を開催し、入札制度全般について改善を図った。	4	かなりの成果があったと認める。	4
		滞納整理等の推進 ①清大寺側の意向を受け、門前町の活性化を図る中で公売のタイミングを探ることとし、年度内の公売を見送った。	3	最低限の成果があったと認める。 一部に、目標を達成していないので評価を下げるべきとの意見があったが、政策的観点から内部評価どおりとした。 目標を達成したかどうかの評価の視点となるので、目標設定を再考されたい。 さまざまなイベントを開催するなど、門前町の活用努力は見られるので、今後はさらに市民を巻き込む工夫をされたい。	3

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
地方分権と広域行政への取り組み	広域行政の推進	消防組織の広域化への対応 ①3回の勉強会を開催し、広域化した場合の必要職員数を検討したが、メリットデメリットの洗い出しが不十分。	3	最低限の成果があったと認める。 今後、消防組織広域化のメリットデメリットの洗い出しを多方面から実施されたい。	3
		消防、緊急無線のデジタル化 ①実施母体は県が事務局となり福井県全体をひとつのエリアとして実施することとなり、各本部の負担額が決定した(365万円 7.6%)	5		

2. 少子・長寿化等に対応した人にやさしいまちづくり

健康作り運動の推進	保健サービスの充実	がん検診受診率の向上 ①前年度より受診者は増えたものの、目標の20%増には至らなかった。H22: 全体6,755人(+7.4%)	4	かなりの成果があったと認める。 子宮がん検診、乳がん検診については、2年に1回の受診となるため、前年度との比較方法を見直しされたい。	4
医療体制の整備	医療体制の充実	福井社会保険病院が奥越において果たしている機能を継続させる ①説明会、講演会を23回開催し、かかりつけ医の推進や奥越における医療の役割分担について意識啓発を行った。	5	十分な成果があったと認める。 かかりつけ医を持つことの効果や検証をされたい。 かかりつけ医となる開業医同士のネットワーク構築を進めるとともに、情報を共有できるシステム作りについても研究されたい。	5
高齢者介護等の体制づくり	高齢者の自立支援	県立大学看護福祉学部と連携して高齢者見守り組織等の体制整備 ①各地区の研修会を4回(67人参加)実施。高齢者見守り活動のマニュアルの素案を作成した。	4	十分な成果があったと認める。 高齢者見守り組織を各地域に設置されたい。 平成22年度はマニュアルの素案作成までとなったが、目標を達成したと認められることから、評点を1つ上げ、外部評価を5とする。	5
共働きを支える体制づくり	保育園運営の充実と施設の再編成	民間保育園の認定子ども園化に取り組む ①国の制度・規制改革の状況が明確になった時点で、再度事業実施について検討することとし、認定こども園については見送った。	2	あまり成果がなかったと認める。 市が直面している少子化の現状を踏まえ、積極的に取り組まされたい。	2
子育て支援等の充実	子育て支援の充実、子育て環境の充実	各種子育て支援事業の推進、「子育て環境モデル都市」を実現する ①子ども医療費の対象を、未就学児から中学校3年生に引き上げた。(小中学生は自己負担あり) ②すくすく育成奨励金を継続した。 ③保育料軽減率は県下9市トップを維持できず、2位となった。 ④子ども手当制度のスムーズな導入を行った。 ⑤児童センター無料化を継続した。 ⑥まずは、公共施設が協賛店になることが必要と判断し、公共施設3施設で協賛を得た。 ⑦幼児教育・保育支援事業における保育カウンセラー派遣時間を拡充した(192時間⇒362時間)。 ⑧次世代育成支援地域行動計画にある事業(インフルエンザ予防接種助成、子育てガイドブックの作成配布など)を、関係各課と協力して推進した。 ⑨子育て世代を対象とした次世代育成支援行動計画にある主な子育て支援施策の周知をすることで、家庭での意識啓発を図った。	5	十分な成果があったと認める。 「保育料軽減率県下9市トップ」は目標に至らず2位となったが、他市の実情からするとトップ維持の姿勢を保つことが評価に値するとの意見があった。 ただし、「保育料軽減率県下9市トップ」のように、他市の動向によって達成状況が変化するような目標設定は見直しをされたい。	5

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
生活の自立に向けた福祉の充実	福祉のまちづくりの実現	障害者自立支援協議会の組織化等による障害者支援体制づくり ①本会議、発達障害・教育部会、生活・居住支援部会、日中活動・就労支援部会を各2回開催し、課題整理と対応策の研究を進めた。 ②「障がい者の正しい理解」を啓発するためホームページを開設し、啓発活動を担当するプロジェクト会議を自立支援協議会内にて立ち上げた。 ③先進地(滋賀県湖南圏域)への視察研修を行い、委員の資質向上と協議会の機能強化を図った。 ④毎週月・水曜日に、「すこやか」でたまり場カフェを実施し、障がい者の社会参加を促した。 ⑤障がい者施設における廃油回収を普及に努めた。	5	十分な成果があったと認める。 ノーマライゼーションの観点から、障がい者に対する理解を深めるための啓発活動を実施されたい。	5
		生活保護世帯の稼働年齢層に対する就労支援事業の強化 ①稼働年齢層に対する就労支援の結果、3名(うち1名継続中)がアルバイトに就いた。	4	かなりの成果があったと認める。	4
		福祉バスの運行範囲の拡大についての検討 ①現在の委託業者から意見を聴取し、購入と委託のメリット、デメリットを検討し、H23予算でバスの新規購入および委託を計上した。	5	十分な成果があったと認める。 新しい福祉バスの導入後は、現在の運行範囲の拡大について前向きに検討されたい。	5
安定した年金・保険体制等の確立	国民健康保険、介護保険等の健全運営	国保財政健全化、新しい医療制度への円滑な移行 ①赤字補填分として国民健康保険基金を取り崩し(当初予算同額)、税率改定を実施したが、単年度収支赤字の解消には至らなかった。	4	かなりの成果があったと認める。 単年度収支赤字解消に向けては、税率改定だけでなく、特定健診の啓発や、市民が医者に頼らない健康な生活を送るための取組みなど、勝山市全体で横断的に取り組まれたい。	4
		メタボリックシンドローム予防のための健診・健康教室を充実 ①特定受診率は33.8%にとどまり、目標には至らなかった。 ②特定保健指導実施率は24.7%にとどまり、目標には至らなかった。(H23.4月現在での数)	2	あまり成果がなかったと認める。 受診率等は前年度より上がっていることは評価できる。目標設定が高すぎたと考えられるので、今後の目標設定の際に十分に検討されたい。	2

3. 産業とまちのにぎわいなど若者に魅力あるまちづくり

農林水産業の振興	集落を基盤に考える地域農業の振興	農業の担い手(認定農業者、集落営農組織)の育成 ①新規認定農業者個人は1名増だったが、2名が継続申請をしなかったため、1名の減となった。	4	かなりの成果があったと認める。 一部に、認定農業者の総数が減少したため、高評価にはあたらないのではないかと意見があったが、新規の認定農業者を開拓することが難しい中での1名増を高く評価した。 高齢化進展により認定農業者の減少が予想されるので、今後、新たな方策を検討されたい。	4
	地域ブランドの確立と交流型農業の推進	循環型農業の推進 ①市民農園3地区(郡町、長山町、浄土寺)で総区画数32区画を整備した(H22利用実績13区画9名)。農地なんでも相談25件。ヤギ10頭の放牧実験を実施および保育園や老人施設など3園訪問した。 ②素案を作成し、議会に示した。	4	かなりの成果があったと認める。	4

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
		<p>農業特産品の開発推進・販売奨励支援制度の拡大</p> <p>①野菜等の6月販売には間に合わなかったが、サンプラザ内ハニー中吉で地のもの野菜等を7月に販売開始した。10月には販売品目が20種から30種に増加した。</p> <p>②HP充実に向けて、各推進店にアンケートを行い、全推進店をHPで紹介できるよう準備を進めたが、充実には至らず、各店の連携強化については取り組めなかった。</p> <p>③広報紙、新聞、商工会議所などを通じてPRした。また、認定農業者や加工・直売業者等に直接PRしたところ、4件の応募があり、うち3件を採択した。</p>	4	かなりの成果があったと認める。	4
	鳥獣害防止対策の推進	<p>有害鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止</p> <p>①クマによる人身被害が、4件発生した。</p> <p>②イノシシによる農作物被害面積は24haとなり、被害が拡大した。(対21年度比88%増)</p>	2	<p>最低限の成果があったと認める。</p> <p>社会環境の変化に大きく影響される目標設定については今後再考されたい。</p> <p>目標は達成できなかったものの、行政無線、広報車、緊急メール等を活用した注意喚起、イベントの中止など、行政による積極的な取り組みによって、被害の拡大を防げたと考えられるため、評点を1つ上げ、外部評価を3とする。</p>	3
	継続的な森林管理の推進	<p>里山の荒廃防止</p> <p>①アボット勝山の森で500本植樹した。北陸電力福井支店と協定書を調印した。かつやま恐竜の森に桜の木を202本植樹した。</p> <p>②樹幹注入による松くい虫被害防止を継続した(12本)。</p> <p>③法恩寺山有料道路沿いの枯損木を伐倒した。</p> <p>④平泉寺菩提林および平泉寺墓地内の病害虫被害木を伐倒した。</p>	5	十分な成果があったと認める。	5
商工業の充実	産業支援機能の強化	<p>産業振興支援策の充実(産業振興懇話会の充実と活用)</p> <p>①前年度同様年3回実施し、企業支援制度の改正に貢献した。</p> <p>②企業誘致活動に向けた密接な連携強化を図ることができた。</p> <p>③見識、人脈豊富なプロジェクトマネージャーとして藤村氏を選任した。</p> <p>④「ガンバル企業の誇れる技でものづくり誌」に44社が賛同掲載し、150冊作成した。また、企業立地のしおりを300部作成し企業誘致活動に活用した。</p> <p>⑤空き工場等の所有者に対して登録制度への加入を促進し、HPへ掲載した(16件)。</p> <p>⑥インキュベート施設事業実施要綱を改正し、利用期間延長、延長時の施設利用料、退室時の家賃補助等を明確化した。</p> <p>⑦市内企業参加による実行委員会を組織し、同委員会による産業展への参加要請を実施した結果、10社・団体が参加した。</p>	4	<p>かなりの成果があったと認める。</p> <p>厳しい社会経済状況の中、産業振興支援への取り組みは評価できる。</p>	4

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
		中心市街地活性化にかかる事業の推進 ①商工会議所での各種説明会や市広報、HPでPRLした結果、まちなか賑わい創出事業2件、商業地域等出店促進事業1件の申請があった。	4	かなりの成果があったと認める。 起業家育成に取り組みたい。	4
	新しい企業の誘致促進とベンチャー企業の育成	新しい産業を誘導する・新しい企業を誘致する ①工業振興助成制度のあり方を検討し、企業立地助成金、空き工場等活用助成金の要件緩和を行い、地元中小零細企業でも活用できるように改訂した。 ②10件の応募があり、うち7件を採用した。 ③東京奥越経済同友会、東大阪市税理士会との情報交換会を実施したが、中京圏の連携には至らなかった。 ④目標数には至らなかったが、中京3社・銀行2行、関西3社・銀行1行に企業誘致活動を行った。	4	かなりの成果があったと認める。 企業誘致政策の1つとして、地元企業が市外に出ていかにように支援をされたい。	4
観光リゾート産業の推進	まちなか観光の推進	観光誘客の促進 ①着地型観光の商品開発には至らなかったが、東急リゾートサービスへ業務委託し、大阪での恐竜関連イベントの際に誘客活動を実施した。 ②新たな育成はできなかった。 ③福井坂井奥越広域観光圏推進協議会に加盟し、新たな観光誘客策を進めた。	3	最低限の成果があったと認める。 民間の若者の力を活用した観光誘客を図られたい。 観光客がまちなかを楽しく歩けるよう、観光マップの充実や勝山市として横断的なガイドの育成を進められたい。	3
	観光リゾートの推進体制の整備と観光キャンペーン等の強化	四季折々の自然を利用した体験型宿泊旅行の企画と誘致 ①東急リゾートサービスと共同し、修学旅行誘致も視野に入れた各種体験プログラム商品開発に向けて、体験メニューの調査活動を実施した。 ②福井坂井広域圏との連携を積極的に実施した。	3	最低限の成果があったと認める。 体験型宿泊旅行の誘致については、勝山市として横断的に取り組まれたい。	3
		エコ(まちなか)サイクリング誘客の推進 ①正面玄関前に自転車を置き、ポスターを掲示した。受付にて案内を実施した。ゆめおーれHPで利用をPRLした。 ②まちなか散策マップ、お散歩マップを活用して誘客を促進したが、年間利用状況が延べ70台にとどまった。 ③まちなかの駅とのタイアップは実施しなかった。	2	あまり成果がなかったと認める。 平成21年度評価に続いての低い評価となったことは課題。 効率的効果的な事業推進をされたい。 レンタサイクルを利用しているターゲットの明確化、利用者のニーズ把握などを研究して、目的意識を持って事業を推進されたい。 利用された人の声を聞くことで、より効果的な利用方法や周知方法の研究を図られたい。 まちなかサイクリング誘客を目指し、えちぜん鉄道との連携、恐竜渓谷ルートを活用、サイクルフェスタ、グランフォンドなどの大規模な自転車イベントの定着などのさまざまな事業に、勝山市として横断的に取り組まれたい。	2

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
中心市街地の 形成とにぎわ いのネットワ ーク	市街地にぎわ い拠点の形成	まちの駅ネットワーク勝山の機能向上を図る ①加入促進を図ったものの、新規加入はなかった。	3	最低限の成果があったと認める。	3
		はたや記念館ゆめおーれ勝山の活用 ①来館者数は104,335人(ミュージアムゾーン20,223人:19.38%)となり、目標を達成した。	5	十分な成果があったと認める。 ゆめおーれ勝山に10万人以上の来場者があったことは高く評価できる。	5
		社会資本整備総合交付金事業の推進 ①市民アンケートの回収が3月末までとなったことから、改修案の策定はH23年度に行うこととした。 ②予定通りの路線を冬前に整備し、効果を上げた。(948.4m) ③整備内容について地元の合意を得た。	4	かなりの成果があったと認める。	4

4. 環境に配慮した誰もが住みたくなる安全なまちづくり

地域力の向上	快適な定住環 境の整備促進	北谷地区の地域振興(地域活性化に向けた要望への対応) ①総合計画第7章に北谷地区の活性化、再生の基本方針を位置づ けた。 ②地区住民と庁内ワーキングとの協議、北谷町住民聞き取り調査 の実施、北谷地区住民と市長と語る会の実施を通じて、優先的に進 めるべき施策・事業の把握を行った。 ③総合計画第7章に北谷地区の活性化、再生の基本方針を位置付 けた。 ④河合、小原、木根橋において、県事業の採択を実現した。 ⑤事務局として、今後の連携に向けて協議を行った。 ⑥地元と交通システムのあり方について協議を行った。 ⑦発電所所在市町に対する地域振興交付金を活用して新しい基金 条例を制定する方針を決定した。	4	かなりの成果があったと認める。	4
交通体系の整 備	バス体系の整 備	利便性の高いバス運行体制の確立 ①デマンド交通の調査研究を行うとともに、バス路線の一部変更を 行った。 ②勝山駅、ゆめおーれ勝山前、サンプラザ前、社会保険病院バス停 の路線図、時刻表を作成して掲示した。	5	十分な成果があったと認める。 各待合所におけるバスの発着時間が変更は、高齢者にとつ て影響が大きいので慎重に対応されたい。	5
		「恐竜バス」の効率的な活用 ①7,574人(H21比44%増)が下車し、目標を達成した。	5	十分な成果があったと認める。	5
	乗りやすい鉄 道の整備	えちぜん鉄道の利用促進 ①全線で3,152千人、市内で151千人となり、目標には至らなかった。	3	最低限の成果があったと認める。 このまま利用者の減少が続けば、再び鉄道が廃線の危機に 陥ることを市民に対して啓発されたい。 利用者が伸び悩んでいる原因を検証されたい。	3

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
快適で安全なまちづくりの推進	防災体制の充実	学校、市有公共建築物の耐震化を進める ①公共施設の耐震化は3棟にとどまり、目標には至らなかった。	3	最低限の成果があったと認める。 東日本大震災による甚大な被害に鑑み、公共施設の耐震化は計画に基づき、遅滞なく実施されたい。	3
		災害情報伝達方法の改善と各地区の自主防災組織の設立支援 ①1,276件となり、目標を達成した。 ②目標には至らなかったが、2地区(保田、立川)で、立ち上げた。	3	最低限の成果があったと認める。	3
		災害時要援護者支援計画に基づく要援護者の登録の推進と支援組織の構築 ①4班体制で各地区区長会で制度説明し、登録を推進したが、前年度比減となった。(H22:1,870世帯、2,369人)。マニュアル化には至らなかった。 ②自主防災組織との連携を目指したが、設立が2地区にとどまり、組織化には至らなかった。春の消防訓練では芳野区、水防訓練では保田区で要援護者避難訓練を実施した。秋は消防訓練が中止となったことから未実施。 ③他市の状況等を研究した。 ④マップづくりの研究を実施したが、要援護者マップ(電子化)作成には費用対効果の課題があることが判明した。	3	最低限の成果があったと認める。 一部に要援護者登録の推進は非常に苦労が多く、行政の努力を考慮すると、評価3は低いのではないかと意見があった。	3
快適で安全なまちづくりの推進	消防体制の充実	市内全家庭における住宅用火災警報器の設置 ①設置率は57.6%となり、目標には至らなかった。	2	最低限の成果があったと認める。 義務化されたとはいえ、目標の設定が高すぎる。今後も、住宅用火災警報器義務化の周知徹底を図り、自分の身や家族は自分で守ることを啓発されたい。 消防団員の精力的な啓発活動により、義務化については90%以上の市民が認識しているにも関わらず、設置率が伸び悩んでいるのは、市民の意識に課題があることから、評点を1つ上げ、外部評価を3とする。	3
循環型社会の構築に向けた供給処理体制の整備	水の供給処理システムの整備	簡易水道の上水道への統合 ①一部工事を平成23年度に繰り越して実施中。平成23年度から経営統合による統合で地元同意を得た。 ②地元と協議して進め、台帳整備ができた。	4	かなりの成果があったと認める。	4
		汚水処理施設接続の促進 ①公共下水83戸、農業集落排水21戸となり、目標には至らなかった。	2	あまり成果がなかったと認める。 汚水処理施設への接続を義務づけしたうえで事業を進めていることを今一度周知し、取り組まれたい。	2

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
	環境共生のまちづくりの推進	<p>市民と行政とが一体となったエコ環境都市実現に向けた活動</p> <p>①「環境基本計画第1次実施計画」を平成23年3月に策定した。 ②エコ環境都市推進プロジェクトを設置し、5回の会議を実施した。 ③緊急雇用創出事業を活用し、週5日不法投棄パトロール及び不法投棄物の撤去回収を実施した。 ④環境首都コンテストに参加した。(H22:28位) ⑤広報かつやまに毎月エコ環境都市関連の記事を掲載し啓発した。また、環境啓発パネルを作成し、公共施設等に掲示した。 ⑥小中学生を対象とした環境家計簿の実施による家庭での省エネの推進や、勝山南高校生徒会による不法投棄防止チラシの配布した。 ⑦レジ袋有料化店舗の拡大には至らなかったが、現状の4店舗を維持した。 ⑧かつやまをきれいにする運動の新規認定が30団体(24地区、6事業所)あり、計90団体となった。 ⑨クリーンアップ九頭竜川清掃事業については、広報かつやまでPR及び結果を掲載した(参加者710人、回収2,910kg)。地区の清掃活動時のごみ回収支援を行った(33回)。 ⑩イベント等での市民への省エネ等の啓発を行った。</p>	5	<p>かなりの成果があったと認める。 レジ袋の無料配布中止については、民間企業の視点からは様々なジレンマはあるが、行政として環境自治体会議を控えていることから、改善策を講じて積極的に推進されたい。 レジ袋無料配布中止店舗の拡大には至らなかったことから、評点を1つ下げ、外部評価を4とする。</p>	4
総合的な雪対策の推進	雪に強いまちづくり	<p>狭い道路の除雪の推進</p> <p>①区長に対し要望調査を行い、区長立ち会いのもとで実施した。狭小路線の雪対策基準を設定し、基準に基づいて除排雪を実施した。 ②小型機械による除雪は、3地区6路線775m実施した。小型機械による排雪は5地区10路線808m実施した。 ③3地区(芳野、昭和町2、上後)で新規に実施した。 ④4路線(L=153m)で施工した。</p>	5	<p>十分な成果があったと認める。 屋根雪降ろしへの支援も含めた総合的な雪対策を急がれたい。</p>	5
質の高い住環境の整備	多様な住宅・住宅地の供給	<p>第3次定住化促進事業の推進</p> <p>①住宅取得11件、家賃補助5件</p>	3	<p>最低限の成果があったと認める。 本事業の市民への周知を、建築事業者からも積極的に行うよう要請されたい。 これまでの事業利用者の声を聞いて、定住人口増加のために活かされたい。 定住化促進に向けた勝山市として横断的に進められたい。</p>	3
	公営住宅の建設・管理の推進	<p>住宅計画に基づく新市営住宅の建設</p> <p>①平成22年9月に起工した。 ②1戸にとどまり、目標には至らなかった。 ③5戸で実施し、目標を達成した。 ④3戸で実施し、目標を達成した。</p>	4	<p>かなりの成果があったと認める。</p>	4

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
全市公園化の 推進	長尾山総合公園の整備	長尾山総合公園第2期事業 ①都市計画マスタープラン(改訂版)において、「里山の生態系をできるだけ活かした自然公園の森としての整備を進める」として位置づけた。	5	十分な成果があったと認める。	5
	特色ある公園づくりの推進、親水空間の整備	都市公園の整備活用計画、弁天緑地公園整備 ①4月、5月、7月に点検し不具合箇所の修繕、禁止措置を実施した。 ②H24の採択申請を目指し準備を進めた。 【弁天緑地公園】 ③弁天緑地内小屋等の撤去を実施。 ④弁天整備計画を作成した。 ⑤H23から社会資本整備総合交付金の公園関係事業で工事施工することとなった。 ⑥弁天緑地活用検討委員会です承され、河川占用申請を提出した。	5	十分な成果があったと認める。	5

5. 誰もが学び心が通うふれあいのまちづくり

学校教育の基盤整備と環境の充実	「生きる力」を育成する教育の推進	「生きる力」を育成する教育の推進 ①授業改善全体研修会を開催し、わくわくレポートの実践発表などを実施し、内容の共有を図った。本年度の全教員の取り組みをまとめ、レポート集として全教員に配布し、授業改善の参考とした。 ②ワークシートや指導案などの教育資産を教職員間ネットワーク(Dinosaur-Net)に集め、共有化を図った。 ③小中連携について講演会を開催し、市内全体の教員の意識を高めた。 ④小中連携だより「えがお」は年2回発行にとどまった。 ⑤事例マニュアルの作成には至らなかった。	3	最低限の成果があったと認める。	3
	教育環境の整備	学校等耐震工事の推進 ①実施設計を行い、現在、耐震補強・改修工事实施中。 ②実施設計を行い、現在、耐震補強・改修工事实施中。	5	十分な成果があったと認める。 東日本大震災による甚大な被害に鑑み、学校施設の耐震化を早期に完了されたい。	5
		小・中学校の再編 ①②市の素案に対する意見、提案を踏まえて、今後の再編の進め方を第5次勝山市総合計画基本計画において明確にした。	4	十分な成果があったと認める。 市民の声を十分に聞き、第5次総合計画の中で再編の進め方についても明確にしていることから、評点を1つ上げ、外部評価を5とする。	5
次世代を担う青少年を地域で育てる	アクションプラン21	次世代育成アクションプラン ①大人が見本を示して子どもを育てるための、地区ごとの行動目標を定め、次世代育成推進委員会が中心となって地域で子どもを育てる活動を実施した。	3	最低限の成果があったと認める。	3

平成22年度政策基本目標管理外部評価

施策名		取組結果	内部 評点	意見	外部 評点
男女共同参画 社会の推進	男女共同参画 基本計画	男女共同参画社会の実現 ①男女共同ネットワークによる「家庭で取り組む 男女参画」事業の実施など、勝山市男女共同参画基本計画の改定に向け、より具体的な行動計画を反映するための準備を進めたが、企業支援の制度化には至らなかった。 ②男女共同ネットワーク交流会を開催し、会員相互の情報共有及び意識啓発を図った。	3	最低限の成果があったと認める。	3
余暇・スポーツ 活動の充実	余暇・スポーツ 活動施設の整備	新体育館建設に向けての取組み ①委員会を4回開催し、最終報告書を作成し、市長に提出した。	5	十分な成果があったと認める。 平成30年福井国体でのバドミントン競技の誘致に向けた、新体育館の建設について市民に早急に示されたい。	5
伝統と歴史に 培われた文化 の継承	食育の推進	食育の推進 ①中学校17.3%、小学校20.1%にとどまり、前年度を下回った。 ②小学校6校(成器西、成器南、北郷、荒土、野向、三室)、幼稚園1園(南)、保育園4園(平泉寺、野向、ケイター、中央) ③実測は難しいものの、残菜割合の減少に向けて啓発した。 ④131人となり、目標を達成した。 ⑤19人、7団体となり、前年度同数にとどまった。 ⑥全館での開催を実施できた。 ⑦6月に1回実施した。 ⑧90%と、大きく上回る事ができた。	4	かなりの成果があったと認める。 地場産給食における食材の総使用量に占める地場食材の使用量の割合を目標設定にするというのは検証方法に無理があると思われるので、評価可能で分かりやすい目標の設定をされたい。 勝山市の現状にあった独自の目標を設定されたい。	4
	史跡整備と歴 史的町並み環 境の整備	史跡白山平泉寺旧境内整備事業の推進(白山平泉寺の発掘地とガイダンス施設整備)、世界遺産登録に向けての取組み ①ガイダンス施設建設現場に完成予想図を設置し、周知を図った。 ②毎月発行して平泉寺地区で配布するとともに、HPで公開しPRした。 ③白山文化フォーラム 107人、平泉寺歴史講演会 121人と、どちらも目標には至らなかった。	4	かなりの成果があったと認める。	4
		国重要文化財旧木下家住宅の修繕と管理活用 ①特別公開を4月、5月、8月、11月の4回実施し、目標を上回った。	5	十分な成果があったと認める。	5